



あいさつする小林会長

労働者の福祉向上 と社会保障確立へ

富士宮地区労働者福祉協会の 新年度事業計画決める

富士宮地区労働者福祉協議会（小林純一会长）の総会が12日、富士宮市弓沢町の県労働金庫富士宮支店で開かれた。役員や会員ら約60人が出席し、新年度の事業計画などを決め、労働者福祉の推進と社会保障確立に向けて意識を高めた。

開会であいさつした小林会長は、同協議会の目的を説明し「これから労働者の福祉向上を目指し、社会貢献活動を促進していきたい」と述べた。

来賓の鈴木利和県労働者福祉協議会専務理事は、県労働者福祉協議会が「ドバンクふじのくに」を力を入れていることを伝え、「皆さんが毎年行っている身近な支援活動の継続をお願いしたい」と要請。須藤秀忠市長は「行政と労働者が連携し、より良い労働者環境を推進していきたい」と話した。

議事では前年度の事業・決算報告などを行い、新年度の事業計画・予算などを決めた。新年度は「労働者の福祉要求の実現を通じて、労働者家族の生活向上と安定をはかり、くにへの支援活動、福祉とくらしのセミナー、会員のためのバスツアーやボウリング大会などを繰り広げる。